

◆製品使用上の注意事項◆

●火気について

- ・モルタル用樹脂は、消防法に定める危険物第四類第一石油類（引火点 2 1℃未満）に属する引火性液体です。
- ・取扱い時（保管を含む）には、タバコ・ライター等の火気を厳禁するとともに、熱や直射日光を避けて保存してください。
- ・保管場所、施工場所には常に消火器を用意してください。

●樹脂について

- ・モルタル用樹脂（混練後の樹脂モルタルを含む）に接触すると皮膚炎を起こすことがあります。必ず保護手袋（耐油性、耐溶剤性等）を着用し、接触しないようにしてください。また、眼刺激性がありますので、必ず保護メガネ（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型等）を着用し眼を保護してください。
- ・粘度調整や硬化時間の調整はしないでください。また、同様の目的のためにシンナー等で薄めることは絶対にしないでください。
- ・水が混入しないように十分注意してください。
- ・皮膚に付いたときは、布などで拭き取ってから石鹸水でよく洗ってください。
- ・取扱い時には揮発を伴うため、換気を良くし、吸入しないようにしてください。また、必ず防毒マスク（有機ガス用吸収缶を使用）等を着用ください。
- ・目に入った場合は直ちに清浄な流水で 1 5 分以上洗浄し医師の診断を受けてください。
- ・飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず、医師の診断を受けてください。
- ・詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- ・樹脂液及び樹脂モルタルは硬化時に発熱を伴い高温となりますので、火傷に注意してください。また、刺激臭の煙が生じる場合があります。そのような時は、硬化反応が終わるまで周囲に影響がない屋外等に放置し、煙を吸い込まないようにしてください（第三者を含みます）。

●骨材について

- ・骨材には硬化剤が予め添加されています。他の骨材では代用できません。また、他の骨材等を添加・投入することは、性能が確保できなくなるばかりでなく、硬化不良や接着不良を引き起こすため、絶対にしないでください。
- ・骨材が水などに濡れると硬化不良や接着不良となりますので、骨材は絶対に湿らさないように取り扱ってください。
- ・直射日光を避け、高温（3 5℃超）とならないように使用・保管してください。

●硬化剤について

- ・冬期用硬化剤は、衝撃や摩擦が加わらないように取り扱いください。また、火気や高温発生の恐れにある場所では取り扱いわないでください。
- ・保管や計量時に使用する容器の材質は、ステンレス／ガラス／ポリエチレン等を用い、鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避けてください。また、直射日光を避け、高温（3 5℃超）とならないように使用・保管してください。

●保管について

- ・ロードリペアキット(コンクリート用)は、直射日光や雨水等を避け、風通しの良い冷暗所（3 5℃以下）に保管し、製造後 6 ヶ月以内に使用してください。また、保管場所には、火気厳禁とし、その表示を行ってください。
- ・関係者以外の取り扱いが出来ないように、保管してください。

ご使用前に必ずお読みください

取扱説明書

ロードリペアキット(コンクリート用)

◇ 梱包内容 ◇



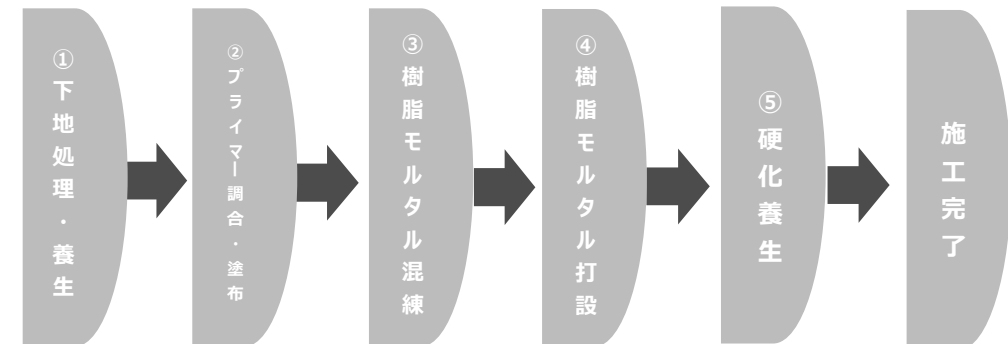
名 称	容 量	数 量
プライマー用樹脂	0.5kg/缶	1缶
プライマー用硬化剤	－	1袋
モルタル用樹脂	1.65kg/缶	2缶
モルタル用骨材	8.35kg/袋	2袋
撒き砂	－	1袋
冬期用硬化剤	－	2袋

■施工できない下地

下地種類	備 考
ポリマーセメント系	エチレン酢ビ系、アクリル系、SBR系等
エポキシ・ウレタン樹脂	塗膜、樹脂モルタル
アスファルト系	アスファルト舗装、乳剤、防水材、常温合材、パッチング材
カチオン系	カチオンシーラー等
塗料	各種塗料、ロードマーキング

※強度の弱い下地への施工はできません

■作業手順



発売元

一滴のところで未来をつくる

スリーボンドユニコム株式会社

本 社 〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 JR東急目黒ビル9階
TEL 03-6421-7450(代) FAX 03-3495-6751

□ 事業所

仙 台 支 店	〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8-8	TEL 022-287-2977 FAX 022-287-2987
東 京 支 店	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1937	TEL 045-642-5150 FAX 045-544-7551
名古屋支店	〒468-0052 愛知県名古屋市天白区井口1-501	TEL 052-806-3377 FAX 052-806-3337
大 阪 支 店	〒577-0027 大阪府東大阪市新家中町8-8	TEL 06-6618-6680 FAX 06-6618-6730
福 岡 支 店	〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南4-11-33	TEL 092-412-3456 FAX 092-412-3444

①下地処理・養生

1. 下地の脆弱部や旧補修材等は除去します。(ハツリ取るなど)
2. 下地面に油脂分・水分がある場合は完全に除去します。水分はウエス等で拭った後、自然乾燥もしくはブロアーなどで強制乾燥します。
3. 掃除機等でゴミや埃を除去し、下地表面をきれいに清掃します。
4. 補修部分を養生テープ等で養生します。

作業ポイント 下地の脆弱部・水分・油分を撤去し、完全乾燥！

②プライマー 調合・塗布

1. 下地温度を測定し、0℃～35℃の範囲であることを確認します。
2. プライマー用樹脂とプライマー用硬化剤を準備し、プライマー樹脂缶を1分程度よく振り、缶内の樹脂液を均一にします。
3. 注意しながらプライマー用樹脂缶の蓋を開け、プライマー用硬化剤を全量缶内に投入し、缶の蓋をしっかりと閉じた後、プライマー用硬化剤が溶解するまで缶をよく振ります。
4. プライマーをモルタル打設箇所へ刷毛やローラー等で均一に膜が形成するように素早く塗布します。標準塗布量は1～2㎡/缶です。
5. 塗布後、硬化・養生し、プライマーの硬化を確認してから、次工程へ移行します。

作業ポイント 素早く塗布し、硬化後に次工程へ！

◆注意事項◆

- ・プライマーの塗布量が少ないと、未硬化や剥離等の原因となります。
- ・塗布したプライマーの吸い込みが多いコンクリート下地では、未硬化が生じることがあります。未硬化部を取り除いた後、再度プライマーを上面に塗布します。
- ・ゲル化寸前（粘度が高くなった状態）或いはゲル化したプライマーを使用すると、未硬化や剥離等の原因となります。
- ・プライマー硬化剤が溶解しない状態で使用すると未硬化や剥離等の原因となります。

③樹脂モルタル混練

1. 下地温度を測定し、0℃～35℃の範囲であることを確認します。
2. モルタル用樹脂、骨材、撒き砂を準備します。低温時（0～10℃）は冬期用硬化剤も準備します。
3. モルタル用樹脂缶は1分程度よく振り缶内の樹脂液を均一にします。
4. モルタル用骨材は袋の上面をハサミ等で開封し、内容物が出ないように注意しながら空練し、骨材を均一にするとともに骨材塊がない様にほぐします。
5. モルタル用骨材1袋にモルタル用樹脂液1缶を全量投入した後、内容物が出ないようにしっかりと骨材袋を掴みながら、樹脂と骨材を揉みほぐすように良く混合し、均一な樹脂モルタルとします。時々、袋の中を覗き骨材の塊等がないか混合具合を確認します。
※下地温度が10℃以下の場合は、冬期用硬化剤を下記のとおり添加し使用します。
・均一にしたモルタル用樹脂の缶内（1缶）に冬期用硬化剤（1袋）を添加した後、硬化剤が溶解するまで缶をよく振り、上記のように樹脂モルタルを混練します。
6. 大量に使用する場合、電動ハンドミキサー、練りバケツを使用し攪拌することも可能です。
・その場合は、練りバケツにモルタル用樹脂を入れ、攪拌しながら骨材を投入してください。

作業ポイント モルタル用骨材・樹脂液はもみほぐすように混合！

④樹脂モルタル打設

◆注意事項◆

- ・モルタル用樹脂缶は、骨材へ添加する前によく振って均一にしてください。不十分な場合には、未硬化等の原因となることがあります。
- ・モルタル用樹脂缶を振った後に蓋を開ける場合には、内圧が上がり内容物が吹き出す場合がありますので、注意して開けてください。
- ・樹脂と骨材の混練が不十分な状態で使用すると、未硬化や剥離等の原因になります。
- ・袋の端部は樹脂と骨材が混ざり難いため、均一に混練できているか確認します。
- ・ゲル化寸前（粘度が高くなった状態）或いはゲル化した樹脂モルタルをしようすると、接着・仕上がり不良になります。

1. 混合した樹脂モルタルを補修箇所に打設し、コテ等で下地に樹脂モルタルが十分にいきわたるようにコテ圧をかけ素早く敷均します。30mmより厚くしたい場合は、2回以上に分けて施工します。2回以上に分けて施工する場合は、樹脂モルタルが硬化したのを確認してから、樹脂モルタルを塗り重ねます。塗り重ねる前に、表面に油脂分、水分、ゴミ、埃がないことを確認します。
2. 樹脂モルタルを敷均した箇所から、直ちに（硬化する前に）撒き砂を表面に散布します。
3. 撒き砂散布後、硬化養生をし、樹脂モルタルの硬化を確認できたら完成です。（硬化は、指で押してへこまなくなった時点が目安です）
※表面にタック（若干のべとつき）が残ることがあります。
4. 使用したコテ等はシンナーやアセトン等で洗浄します。
5. 周囲にテープ養生した場合、撒き砂散布が終わった箇所から、テープを剥がします。

作業ポイント 素早く敷均し仕上げ、30mm以上は分割施工！

◆注意事項◆

- ・樹脂モルタルの塗布厚が薄すぎると、未硬化や剥離等の原因となります。
- ・下地に凹凸がある場合は、凹部に樹脂モルタルが充填されるように塗布します。充填が不十分だと剥離の原因になります。
- ・シンナー等の溶剤や水等が混入すると、未硬化や剥離の原因だけでなく、目的とする物性も得られません。
- ・小さい塗布面積が数か所に点在する場合には、途中で樹脂モルタルが硬化する可能性がありますので、作業配分を考えた上で作業を行ってください。
- ・ゲル化寸前（粘度が高くなった状態）或いはゲル化した樹脂モルタルを使用すると接着不良や仕上がり不良になります。
- ・ゲル化寸前（粘度が高くなった状態）或いはゲル化した樹脂モルタルの表面に撒き砂を撒いた場合は、撒き砂が十分に付着せず滑り止めの効果が得られません。
- ・硬化体でもシンナーや溶剤等で脆弱になるため、接触しないようにして下さい。
- ・一度に30mmを超えて打設すると、物性が低下する可能性があります。一回の打設厚は30mm以下にします。
- ・塗り重ねをする際、表面に油脂分、水分、ゴミ、埃があると剥離の原因となりますので、必ず取り除きます。

⑤硬化養生

- ・硬化確認は、混練時に袋に付着している樹脂モルタル等でまず確認し、固まっているようなら、施工箇所を直接触るなどして確認してください。

◆注意事項◆

- ・養生時間を確保しないと、補修箇所以外が汚れたり、美観が悪くなる可能性があります。

冬期用硬化剤 取扱について

◆使用環境◆

下地温度が0～10℃の場合に冬期用硬化剤を使用します。

◆配合割合◆

配合は、「モルタル用樹脂 1 缶／モルタル用骨材 1 袋／冬期用硬化剤 1 袋」の割合です。

◆使用方法◆

次の方法でご使用ください。

- ・よく振って均一にしたモルタル用樹脂 1 缶に冬期用硬化剤 1 袋を全量添加した後、蓋をして冬期用硬化剤が溶解するまで缶を良く振ります。その後、予め空練しておいたモルタル用骨材に樹脂液を全量投入し、樹脂液と骨材がよく混ざるように袋ごとよく揉み混ぜます。

●注意事項●

- ・10℃以下（0～10℃）の場合は、必ず冬期用硬化剤を添加してください。
- ・下地温度が10℃以下の場合、冬期用硬化剤を添加しないと硬化しない場合があります。
- ・気温が高い場合（目安として20℃以上）に冬期用硬化剤を使用すると、硬化時間が早くなり作業時間が取れなくなることがありますので、注意してください。